

報道関係者各位

(本資料は、2024年1月12日に米国で発表されたプレスリリースの抄訳です)

2024年1月16日
ボストン コンサルティング グループ

【参考資料】

世界の経営層の90%が生成AIの動向を様子見している、 もしくは小規模な実験を行うにとどまっている～BCG調査

AI・生成AIへの積極的な投資、アップスキリング、責任あるAIの実装などが成功のカギ

ボストン発、2024年1月12日 — 経営コンサルティングファームのボストン コンサルティング グループ(以下、BCG)は、日本を含む世界の50市場14業界にわたり、経営層1,406人を対象に実施したAI・生成AIに関する調査の結果に基づくレポート「[BCG AI Radar: From Potential to Profit with GenAI](#)」(以下、レポート)を発表しました。

AI・生成AIに関する取り組みが進まない背景には「人材とスキルの不足」

レポートによると、調査に回答した経営層の66%が、AI・生成AIに関する自社の取り組みの進捗に満足していない、あるいは不満を抱いていることが明らかになりました。その主な理由としては、「人材とスキルの不足」(62%)、「AI・生成AIの活用に向けたロードマップや投資の優先順位が不明確」(47%)、「責任あるAIと生成AIに関する戦略の欠如」(42%)の3つが挙げられています(図表1)。

図表1: 経営層が自社のAI・生成AIへの取り組みの進捗に不満を抱いている理由



出所: ボストン コンサルティング グループ分析 (世界50市場、経営層1,406人が対象)
© Boston Consulting Group 2024 - All Rights Reserved.

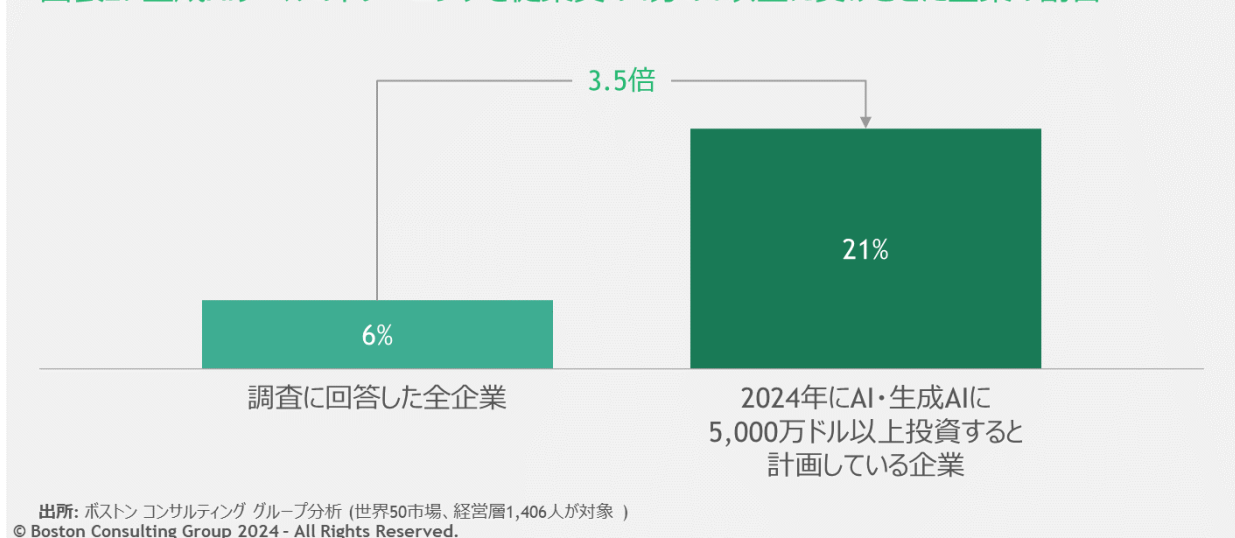
9割近くの経営層が2024年にAI・生成AIへの投資を増やす計画

調査に回答した経営層の71%は2024年にテクノロジーへの投資を増やす計画であり、この割合は2023年から11%ポイント上昇しています。AI・生成AIへの支出を増やす予定であると回答した経営層の割合はさらに多く、85%でした。

成功しつつある企業と様子見している企業を分ける特徴

多くの企業がAI・生成AIへの投資を増やす必要性を実感しているものの、改革に着手する動きは鈍い状況です。調査に回答した経営層の65%が、AI・生成AIが実用的な段階に至るには2年はかかると考えていると回答。71%が、限定的・小規模な実験やパイロットを実施することどまっていると回答しています。調査に回答した経営リーダーの90%がいずれかに該当しており、「様子見している企業」と言えます。アップスキリングについても、生成AIツールのトレーニングを従業員の4分の1以上にすでに受けさせたと回答した企業はわずか6%にとどまっています(図表2)。

図表2: 生成AIツールのトレーニングを従業員の4分の1以上に受けさせた企業の割合



レポートでは、複数の経営トップに対して行った詳細なインタビュー結果も踏まえ、成功しつつある企業と様子見している企業を分ける特徴を以下のように概説しています。成功しつつある企業は、生成AIの影響は将来にわたって持続するものだと認め、生産性の向上と売上高の成長の両方に高いポテンシャルを秘めていることを認識していると考えられます。

- **生産性と売上高の成長を目的とした投資:** 2024年にAI・生成AIに5,000万ドル以上投資すると計画している企業は、同年にコスト削減を見込む割合が同業他社と比較して1.3倍高く、10%以上のコスト削減を見込む割合は1.5倍高い。成功しつつある企業は、コスト削減で捻出した資金を事業に再投資して新たな収益源を生み出し、さらなる成長へつなげている。
- **組織的なアップスキリング:** 2024年にAI・生成AIに5,000万ドル以上投資すると計画している企業の21%は、すでに従業員の4分の1以上に生成AIツールのトレーニングを受けさせている。

- **生成 AI の活用にかかるコストへの着目：** 利用料金など活用にかかるコストは組織に長期的な影響を及ぼすが、あまり注目されない。AI・生成 AI ソリューションを選ぶ際にコストを最たる懸念事項に挙げた経営層の割合は、わずか 19% だった。
- **戦略的なパートナーシップの構築：** AI ソリューションを模索する際に、既存のパートナーシップを優先的に活用しようとする経営層はわずか 3%。成功しつつある企業は、ソフトウェアプロバイダーや生成 AI スタートアップを含む複数の企業とのパートナーシップ (エコシステム) を積極的に構築し、最先端のテクノロジーにアクセスできる体制を整え、まずは短期的な価値を創出しようとしている。
- **責任ある AI (RAI) の原則の実装：** 2024 年に AI・生成 AI に 5,000 万ドル以上投資すると計画している企業の 27% は、CEO 直下で RAI 戦略を推進している (全企業では、この割合は 14% に下がる)。

「今年は生成 AI に期待される可能性を、具体的なビジネスの成功へと結び付ける一年です。技術がこれほど急速に変化すると、事態が落ち着くまで待ちたい気持ちに駆られることもあるでしょう。しかし生成 AI については、他社に先んじて成功を収める企業はとにかく実験し、学び、大規模にシステムを構築しています。多くの CEO が、生成 AI について急勾配の学習曲線を経験しているのです」と、BCG の CEO であるクリストフ・シュヴァイツァーはコメントしています。「生成 AI の能力を完全に引き出すために、経営者はまず生成 AI を導入して日常業務の効率を向上させ、経営にかかわる重要な業務プロセスや機能を再設計し、新たなビジネスモデルを創造するべきです。そうすることで、生産性は最大 20%、効率性と有効性は最大 50% 向上し、売上も増加し、長期的な競争優位性を生み出せます」

■ 調査レポート

[「BCG AI Radar: From Potential to Profit with GenAI」](#)

■ 日本における担当者

中川 正洋 マネージング・ディレクター & パートナー



日本における生成 AI トピックのリーダー。BCG X、BCG パブリックセクターグループ、およびテクノロジー&デジタルアドバンテッジグループのコアメンバー。早稲田大学理工学部卒業。同大学大学院理工学研究科修了。グローバルコンサルティングファームなどを経て現在に至る。

■ ボストン コンサルティング グループ (BCG) について

BCG は、ビジネスや社会のリーダーとともに戦略課題の解決や成長機会の実現に取り組んでいます。BCG は 1963 年に戦略コンサルティングのパイオニアとして創設されました。今日私たちは、クライアントとの緊密な協働を通じてすべてのステークホルダーに利益をもたらすことをめざす変革アプローチにより、組織力の向上、持続的な競争優位性構築、社会への貢献を後押ししています。

BCG のグローバルで多様性に富むチームは、産業や経営トピックに関する深い専門知識と、現状を問い直し企業変革を促進するためのさまざまな洞察を基にクライアントを支援しています。最先端のマネジメントコンサルティング、テクノロジーとデザイン、デジタルベンチャーなどの機能によりソリューションを提供します。経営トップから現場に至るまで、BCG ならではの協働を通じ、組織に大きなインパクトを生み出すとともにより良き社会をつくるお手伝いをしています。

日本では、1966年に世界第2の拠点として東京に、2003年に名古屋、2020年に大阪、京都、2022年には福岡にオフィスを設立しました。

<https://www.bcg.com/ja-jp/>

■ 本件に関するお問い合わせ

ボストンコンサルティンググループ マーケティング 小田切・福井・天舛

Tel: 03-6387-7000 / Fax: 03-6387-0333 / Mail: press.relations@bcg.com